

佐久地域の横断的な課題（案）

資料 1-2

【令和6年度】

（◎：新規事業、○：従前事業の拡充、△：従前事業の継続）

R 6 横断的な課題	R 6 施策の柱	具体的な事業概要（下線：地域振興推進費を活用）
「晴れやかな空の下、心晴れやかに暮らす」確かな生活基盤づくり	1 医療・介護・生活支援の更なる充実と教育の強化 2 広域的な公共交通施策の推進と暮らしを守るインフラの整備 3 豊かな自然環境の保全や、地域の特性を活かした脱炭素 4 地域に息づく文化の承継	△食育の推進と身体活動・運動習慣の普及のため、関係機関・団体等による連携会議の開催
		○ボールウォーキング体験講座や普及啓発フォーラム開催等による、健康づくり・フレイル予防に向けた取組
		◎嚥下機能を考慮した栄養サマリーの検討・改定による、高齢期における病院等での食支援活動
		○地元企業と医療機関等の連携による新たな製品の試作開発と販路開拓支援、プレメディカルケアに関わる試作開発品の実証やニーズ調査の実施
		△地域イベントへの出展によるプレメディカルケア産業関連製品のPR
		○高校再編を契機とする新たな学びの推進に向けた支援
		○長野県地域公共交通計画策定に向けた取組
		◎小海線の利用促進に向けた、公共交通機関を利用して楽しむアウトドアアクティビティの推進
		◎小海線の利用方法や沿線地域の魅力を発信する移住者・来訪者向け冊子の作成
		△佐久地域の医療体制整備
		△農地、農業用施設、林道施設、道路、河川等の復旧・改良
		△土砂災害・治山対策の推進
		△遊水地整備に伴う農地の調整
		○ニホンジカの食害による森林などの生物多様性への影響を調査・検証
		◎小中学校の教員及び児童・生徒を対象とした、温暖化社会の現状と適応策に関する体験型研修会の開催
		△県産木材を活用した高断熱性能を有する住宅の新築・改築に対する助成の実施
		△カラマツの主伐と伐採後の再造林による森林の適正管理、持続可能な林業経営の支援
△御影用水の保全と歴史文化の学びの推進		
△佐久地域の伝統食の振興と食文化の普及促進		
◎地域特産品である生食ブルーベリーを活用したメニューを回るスタンプラリーの開催		
「佐久の産業は粒ぞろい」未来につなげる産業づくり	1 農林水産業、商工業の振興 2 新たな価値観・行動を促した広域観光の推進	○佐久産農畜産物の地消地産の地域内流通体制を確立するため、ほ場見学会及び流通体制検討会の開催
		○直売所出荷者と宿泊施設等のマッチング、直売所の販売リストのひな型の作成
		【再掲】◎佐久地域内のパティスリーによる生食ブルーベリーを活用したメニューを回るスタンプラリーの開催
		○木のある暮らしの体験イベントや、管内在住者を対象とした林業現場体験会の実施
		○東信州エリアにおける日本酒・ワインツーリズムを軸とした広域観光の推進に向けたPR事業や、大学生と酒蔵による意見交換会の実施
【再掲】◎小海線の利用促進に向けた、公共交通機関を利用して楽しむアウトドアアクティビティの推進		
「教育が人を呼び込む」首都圏からの利便性と人を活かした地域づくり	1 移住・定住、つながり人口の増加に向けた取組の推進	○管内関係団体と連携し、地域の特色を活かした移住相談会の開催
		◎特色ある教育や先輩移住者の生活の様子等を掲載した「佐久地域移住ガイドブック」の作成
		【再掲】◎小海線の利用方法や沿線地域の魅力を発信する移住者・来訪者向け冊子の作成
△テレワーク・ワーケーションを推進する団体等と連携し、新規開業の支援		
浅間山の防災体制の強化	1 広域避難計画の策定	△防災セミナーの開催及び防災訓練の実施並びに市町村の広域避難計画の策定支援
		△火山噴火活動の監視・観測体制を維持・強化するため、浅間山火山監視システムを改修
		△浅間山の特性及び地域との関連性を考慮し、佐久地域において必要な火山防災の啓発方法の検討
△Webサイトを活用した情報発信		
中部横断自動車道の整備促進	1 早期の全線開通に向けた連携強化 2 周辺道路網の調査及び整備	△山梨県等との連携を強化し、未整備区間である長坂JCT（仮称）から八千穂高原ICまでの建設促進のため、国への要望活動の推進
		△全線開通を見据えた、物流・貿易・企業誘致・観光などの分野での利用促進
		△中部横断自動車道の効果を最大限生かすため、道路網の調査及び整備

（参考）

地域の 特長と課題	<p>○健康づくり活動が活発で医療体制も充実しているが、高齢化が進み、健康寿命が必ずしも長くないことから、医療・介護・生活支援の更なる充実が必要。</p> <p>○工業系・IT系の学校が少なく、高校生は他圏域や県外に流出していることから、地域力を活かした個性的で、子どもから選ばれる教育環境を整備していく必要がある。</p> <p>○公共交通を民間事業者の独立採算により維持することは困難なことから、持続可能な公共交通システムの構築に向けた検討が必要。</p> <p>○小海線・しなの鉄道の沿線住民と観光客の移動手段を守るため、関係者が一体となって鉄道の利用促進に取り組むことが必要。</p> <p>○近年の激甚化・頻発化する災害を踏まえた風水害から暮らしを守る基幹インフラの整備が必要。</p> <p>○豊かな自然環境の保全や、地域の特性を活かした脱炭素に向けた取組が必要。</p> <p>○将来にわたって持続可能な農林業となるよう、今後を見据えた施策が必要。</p> <p>○デジタル化、脱炭素化、循環型経済への対応を強化し、ITやデザインといった新たな成長産業の創出・振興が必要。</p> <p>○自然環境を活かしたアウトドア・アクティビティの充実や豊かな農畜産物を活かした食事や地元産の日本酒・ワイン・ピール・ウイスキー等の魅力を発信し、ブランド力の向上が必要。</p> <p>○首都圏からの利便性を活かし、新幹線や高速バス、自家用車により多くの観光客が訪問することから、環境負荷の小さい二次交通の整備と、EVに対応した観光地づくりが必要。</p> <p>○地域内に魅力ある小・中学校や幼稚園等が多く、県内外から人々を引き付けている地域性を活かし、子育て世代の移住者の更なる取り込みと、定住し続ける環境づくりが必要。</p> <p>○地方回帰の機運が高まる中、首都圏からの利便性を活かし、交流人口・関係人口を増加させる取り組みが必要。</p>
--------------	---